

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

| | | | |
|-----------|-------------------------|-----------|----------|
| (1) 取組名 | 「わ かるまい」雑穀の桃源郷づくりプロジェクト | | |
| (2) 実施団体名 | 岩手県軽米町 | (3) 対象地域 | 岩手県軽米町地域 |
| (4) 代表団体名 | 軽米町 | (5) 推薦団体名 | — |

| | | | |
|--------------|--|--|--|
| (6)実施した取組の内容 | 取組① | 地域の食文化の維持・伝承、付加価値化 | |
| | 実施主体 | 軽米町 | |
| | 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 |
| | | <p>■実施内容:</p> <p>①雑穀を活用した新たな加工品開発</p> <p>②雑穀活用調理講習会、講演会、調理加工体験</p> <p>③食の祭典</p> <p>④雑穀活用メニュー販売店指定制度の実施</p> <p>■実施時期: 9月～2月</p> <p>■取組の目的:</p> <p>雑穀の新たな加工品の開発や付加価値化を図るとともに地産地消を推進する。</p> | <p>■実施内容、時期:</p> <p>①エゴマ、アマランサスなど雑穀を活用した新たな加工品開発 [9月～2月]</p> <p>②雑穀活用調理講習会、講演会、調理加工体験、雑穀入り学校給食試食会 [9月～1月] 3回</p> <p>③食の祭典「食フェスタinかるまい」を開催 [10/26] 場所: 役場駐車場、物産交流館等</p> <p>④町内飲食店4店舗を対象に雑穀活用メニュー販売店指定制度の実施 [2月予定]</p> <p>■取組の結果:</p> <p>①エゴマかりんとう、エゴマ入り味噌餅、アマランサス茶等、5品の試作品が完成。商品化に向け前進した。</p> <p>②フランス風料理のシェフや女性団体による雑穀調理講習・研修に60名が参加。調理の工夫次第で、より美味しく健康にも良い家庭調理が作れることを体感。参加者の評判も高く、新たな認識を深められた。</p> <p>③「食フェスタinかるまい」の開催では、町内住民をはじめ近隣市町村から約2千人が来場。地域の農林産物や郷土食文化を町内外に広くPRし、安全・安心の雑穀利用に高い関心が示された。</p> <p>④地産地消・消費拡大の仕組みとして、雑穀活用指定店制度を発足。(2月予定) 雑穀料理の定番メニュー化・提供により、町内外への利用促進に寄与。</p> |
| 取組② | 地域の安全安心な農産物生産及び美しい景観づくり | | |
| 実施主体 | 軽米町 | | |
| 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 | |
| | <p>■実施内容:</p> <p>①高齢者、女性農業者等による農園栽培の研修(いきいき農園)</p> <p>②雑穀等植栽による景観づくり</p> <p>③特産品の調査開発</p> <p>④県内外産直施設との物々交換販売事業試験</p> <p>⑤地域活性化基本調査</p> <p>■実施時期: 9月～3月</p> <p>■取組の目的:</p> <p>雑穀の生産振興と併せて雑穀の花などによる美しい景観づくりを推進する。</p> | <p>■実施内容:</p> <p>①高齢者、女性農業者等、町内4地域約70名による雑穀生産から流通の視察研修を実施 [10～1月]</p> <p>②主要道路沿道を中心に雑穀の花や芝桜を植栽 [9～12月]</p> <p>③エゴマ、さるなしなど特産品の調査研究、雑穀のどぶろく醸造試験の実施 [9～3月]</p> <p>④県内外産直施設との物々交換、販売事業試験 [9～3月 2回(宮崎県綾町と山口県田布施町)]</p> <p>⑤地域活性化基本調査の実施 (町内商店50店舗) [10～3月]</p> <p>■取組の結果:</p> <p>①遊休農地約2haを活用したエゴマ、あわ、きび、アマランサスなど雑穀の生産や、これを消費者に直接届ける仕組みや出荷規格等の研修会に、町内4地域の高齢者、女性農業者等約70名が参加。雑穀生産拡大への意欲向上やいきがい創出、コミュニティ活動に繋がった。</p> <p>②主要道路沿道2kmの景観形成が達成。本町来場者を楽しませ、交流人口拡大に向け前進した。</p> <p>③えごま油、さるなしワイン、さるなし・アップルジュース等、4品の試作や、あわ、きびなど菓子への利用研究から、雑穀エゴマ油、さるなしワイン等、3品が商品化されることになった。</p> <p>雑穀のどぶろく醸造試験では、アマランサス、韃靼そばなどを活用。米と同等またはそれ以上の美味しい仕上がり確認できたことから、今後、どぶろく材料としての規制緩和の要望に繋がっていききたい。</p> <p>④他産地農産物を介しながら、町民の関心や集客状況等、交流条件を整理。集客を図るためのイベント開催など、産直施設活性化への方向付けができた。</p> <p>⑤町内商店の経営実態と今後の課題を整理。活性化に関する基本的な施策・取組みの方向を明確化した。</p> | |

| | | | |
|----------------|---|--|---|
| | 取組③ | 都市との交流事業の拡大 | |
| | 実施主体 | 軽米町 | |
| (6)実施した取組の内容 | 実施内容、実施結果 | 当初提案により予定していた計画 | 実際の取組内容及びその結果 |
| | | <p>■実施内容:</p> <p>①雑穀宣伝大使の委嘱、交流推進PR</p> <p>②首都圏飲食店等での雑穀メニュー提供実験（東京）</p> <p>③交流モニターツアーの実施（町内雑穀ほ場等）</p> <p>④農家民宿体制づくり</p> <p>■実施時期：9月～3月</p> <p>■取組の目的： 健康志向により雑穀が脚光を浴びている中で、首都圏を対象とした交流人口の拡大を図る。</p> | <p>■実施内容、時期：</p> <p>①本町出身の首都圏在住者25名を雑穀宣伝大使に依嘱し、首都圏消費者との交流を促進 [9/13依嘱]</p> <p>②首都圏飲食店等での雑穀メニュー提供実験 [2月予定：首都圏レストラン]</p> <p>③首都圏消費者を対象に交流モニターツアーを4回実施し、約80名が参加 [9～10月：町内雑穀圃場3ヶ所]</p> <p>④農家民泊の体制づくりのための検討及び研修会を実施 [2月予定]</p> <p>■取組の結果：</p> <p>①大使の委嘱により、首都圏消費者へ雑穀・農林産物や観光イベント情報をPRできた。 また、大使を通じ、首都圏から町づくりに対する意見や農産物販売情報が寄せられるなど、首都圏ニーズの把握にも効果があった。</p> <p>②首都圏飲食店での雑穀メニュー提供実験では、継続的な情報の収集が必要。(2月提供予定)</p> <p>③交流モニターツアーの結果、生産者と消費者の相互理解が深まるとともに、本町特産品の消費拡大に寄与。 また、首都圏消費者による雑穀生産応援団の結成や雑穀オーナー制度発足への動きがでるなど、今後の交流事業の新たな展開に向け、効果的なものとなった。</p> <p>④グリーンツーリズムによる都市との交流を推進するため、農家民泊の受入れ体制の検討と、試行に向けた研修会を実施し、民泊農家など30人が受入れノウハウを習得。(2月予定)</p> |
| (7)実施体制 | 平成20年度の取組実施における体制・役割分担 | | 取組の実施を踏まえた反省点 |
| | <p>■本町では、平成19年度に地域住民が企画段階から参画する協働参画町づくり基本方針を策定し、この方針に基づき施策を推進中。 本事業においても、関係機関はもとより、地域住民が企画段階から参画する「軽米町元気再生推進協議会」を中心に、各団体が連携・協力して事業の展開を図る。</p> | | <p>■町内関係機関担当、雑穀生産流通団体代表者、産直施設代表、県担当などで構成する「軽米町元気再生推進会議」を開催しながら、関係者が一体となって、着実に「雑穀の桃源郷づくり」を推進できた。 本取組みについては、更に全国に広くアピールしていくこととし、次年度へ繋げる取組みとなるよう努めた。</p> <p>■事業実施にあたっては、役場内各部署のグループ長を構成メンバーとする「地方の元気再生事業推進庁内プロジェクト会議」を立ち上げ、関係部署連携の下、町役場が一体となって事業全体を効果的に進めた。</p> <p>■雑穀を核とした本町の総合的な地域づくりにあたっては、これまでも地域住民が積極的に参画してきているものであり、本事業を通して、更に活動の輪が広がった。</p> |
| (8)取組により得られた成果 | ○成果1→ | 雑穀の販売額の拡大(出荷販売額) [取組①：地域の食文化の維持・伝承、付加価値化 取組②：地域の安全安心な農産物生産及び美しい景観づくり] | |
| | | H19 | H20(当初予定していた目標) |
| | | 雑穀販売額：57百万円 | 雑穀販売額：62百万円 (約8.8%の増) |
| | | H20(実際に得られた成果) | |
| | | <p>■本町のH20年度雑穀販売額(町統計)は、目標を上回る67百万円を達成。 (そば：2百万円、あわ：27百万円、きび：20百万円、ひえ：5百万円、アマランサス：10百万円、エゴマ：2百万円、韃靼そば：1百万円)</p> <p>■二戸地域全体(軽米町、二戸市、九戸村)の農協販売額も1億円に達し、1億達成記念式典(H12.1月)が開催されるなど、本取組みの効果が広がっている。</p> <p>■雑穀の作付面積は年々拡大、これに比例し販売額も拡大している。今後生産される雑穀の付加価値化を図った販売展開が一層重要となっているところである。</p> <p>■雑穀の特産品開発では、3品(エゴマ油、エゴマかんりとう、さるなしワイン)が商品化に向け前進したことから、今後の出荷販売額の拡大に寄与できた。</p> | |
| | ○成果2→ | 交流人口(観光入込客数)の拡大 [取組②：地域の安全安心な農産物生産及び美しい景観づくり 取組③：都市との交流事業の拡大] | |
| | | H19 | H20(当初予定していた目標) |
| | 交流人口：122,200人 | 交流人口：124,500人 (約2.0% 2,300人の増) | |
| | H20(実際に得られた成果) | | |
| | <p>■本事業での交流人口は、約2,200人(食の祭典：約2,000人(産業振興課発表)、モニターツアー：約80人、雑穀の圃場見学者：約100人など)で、ほぼ計画どおりの前年度上乘せが図られた。</p> <p>■美しい景観づくりの取組みでは、雑穀の花の植栽が主要地方道約2km区間で達成され、交流人口拡大に向けた景観形成に寄与できた。 また、遊休農地を活用した農園栽培者研修・雑穀生産の取組では、約2haの遊休農地の活用が図られ、生産振興や景観形成に寄与できたとともに、高齢者等の生きがい創出にも繋がった。</p> | | |

| | | |
|-----------------------------------|---|--|
| <p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p> | <p>■本年度は、9月からの事業実施となったが、関係機関、団体、町民と一体となった取組みにより、本年度の計画内容はほぼ達成できた。 雑穀等景観づくりでは、事業開始が作付けが時期と合わなかったことから、計画した成果が不足した面もあった。このため、次年度も引き続き関係者と協議を行い、本町が目指す雑穀の桃源郷づくりに向け、遊休農地を活用した雑穀生産の拡大と景観づくりの向上に一層取組んでいく必要がある。</p> <p>■高齢者・女性農業者等による雑穀生産への取組みでは、生産拡大への意欲向上と生きがい創出に寄与。今後は、雑穀等生産者組織の法人化に向け、検討を進めていく必要あり。</p> <p>■雑穀の特産品開発では、一定の付加価値化が図られ、3品が商品化に向け前進。今後は、マーケティング調査や消費者等からの評価、情報を定期的に収集しつつ、品質の確保向上と流通・販売の体制づくりを進めていく必要がある。また、地産地消や食育の観点から、小学生から高齢者の各層にあった更なる調理メニューの研究・開発が求められている。</p> <p>■雑穀どぶろくの製造販売の実現に向け、国の規制緩和(可能であればどぶろく特区の中の特区として)に取組み、他地域との差別化、地域ブランドの確立を図っていく必要がある。</p> <p>■首都圏消費者がどこでも利用できるようにするため、雑穀調理メニュー提供店や雑穀販売店の拡大、イベント等による販路拡大実験を行うなど、雑穀のよさの更なるPRが必要である。また、併せて生産地の農家と消費者との交流を継続して実施していくとともに、グリーンツーリズム推進のため民泊農家の拡大を図っていくことが求められている。</p> <p>■特にも本事業に取組んできた中で、関係者、町民などから、全国に向けてもっとアピールしていくことが重要との認識に至った。この機運の高まりをもとに、次年度は「全国雑穀サミットinかるまい」を開催し、全国から本町へ来町する場を設けながら、軽米から全国へ、雑穀のよさや食料自給率の向上などを強く発信していきたいと考えている。</p> | |
| <p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p> | <p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>今後の展開として、地域の食文化の維持伝承、安全・安心な農産物の生産、美しい景観づくり、都市との交流事業の発展・充実を図るものとする。</p> <p>■取組1.「地域の食文化の維持・伝承、付加価値化」 ・雑穀活用メニュー拡大、特産品の商品化・販売拡大 ・ミシュラン軽米の制度の普及拡大 ・雑穀を活用したどぶろくの製造・販売拡大</p> <p>■取組2.「地域の安全・安心な農産物生産及び美しい景観づくり」 ・雑穀生産者の組織化、高齢者・女性農業者組織の体制確立による生産拡大 ・雑穀ロード、そば・アマランサスほ場の設置等、農山村に広がる雑穀の花による美しい風景づくりの充実</p> <p>■取組3.「都市との交流事業」 ・宣伝大使の拡大によるPR活動 ・グリーンツーリズム推進体制・組織づくり、農家民泊による交流促進 ・首都圏レストランでの雑穀調理メニューの試作提供実験(消費者への自然食、健康食のPR)</p> <p>【平成22年度以降】 雑穀の桃源郷づくりに向けて事業を本格展開 ・ミシュラン軽米制度の充実及びPR ・雑穀等の花による美しい景観づくり ・宣伝大使等による本町及び特産品の販売PR・情報交換 ・集落営農による安全安心の雑穀生産の拡大、販路拡大 ・都市との交流の拡大充実及び交流を通じた定住等推進 ・農家レストラン、農家民泊の実施 ・首都圏レストランでの雑穀メニューの販売 ・雑穀商品等本町アンテナショップの検討等</p> | <p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>■取組1.「地域の食文化の維持伝承、付加価値化」〈実施主体:軽米町、町内飲食店、町内女性団体、雑穀生産団体等〉 ①地域で生産される雑穀等の地産地消を推進するため、町内飲食店や産直施設加工部会などを対象とした調理加工研修及び小学生から高齢者の各層にあった調理メニューの開発 ②雑穀の付加価値化を図る一環として、雑穀どぶろくの製造実施を支援 ③安全・安心の雑穀を首都圏等においてPRするイベントに参加 ④雑穀の消費拡大と食料自給率の向上を図ることを目的とした「全国雑穀サミットinかるまい」や「食フェスタ」を開催する。 [活用を希望する制度:地方の元気再生事業希望(想定金額844万円)]</p> <p>■取組2.「地域の安全・安心な農産物生産及び美しい景観づくり」〈実施主体:軽米町、雑穀生産農家、(株)軽米町産業開発〉 ①雑穀等生産者組織の法人化等に向けての研修会等を開催 ②高齢者、女性農業者等の生き生き担い手クラブの新規栽培作目の栽培流通研修の実施 ③主要道路沿道や遊休農地を活用した雑穀などの作付けの拡大などによる花により景観づくりの一層の推進 ④雑穀の特産品の品質向上、マーケティング調査の実施 [活用を希望する制度:地方の元気再生事業の継続支援希望(想定金額489万円)]</p> <p>■取組3.「都市との交流事業」〈実施主体:軽米町、(株)軽米町産業開発、雑穀生産農家、民泊農家等〉 ①宣伝大使委嘱者の拡大を図る。 ②グリーンツーリズム体制づくりの民泊研修会開催する。 ③首都圏飲食店等において、雑穀調理メニューの販売店の拡大を図る。 ④体験交流型の交流事業への体制確立を図るため、消費者との交流イベントを開催する。 [活用を希望する制度:地方の元気再生事業の継続支援希望(想定金額376万円)]</p> <p>■雑穀の桃源郷づくりの更なる取組みによる町の活性化 本事業は、本町における地域の特性を活かした町づくりを推進していくうえで、大変効果的な事業である。 更に、雑穀の桃源郷づくりに着実に進めていくためには、本年度の成果を踏まえながら、①地域の食文化の維持・伝承、付加価値化 ②地域の安全・安心な農産物生産及び美しい景観づくり ③都市との交流事業の拡大 の各取組みを更に発展させていくことが重要であり、次年度の継続を希望するものである。 特にも全国に向けて雑穀のよさや安全・安心の農産物生産、更には、食料自給率の向上を発信していくことを目的とした「全国雑穀サミットinかるまい」の開催を是非成功させながら、本町が目指す雑穀の桃源郷づくりの基礎を確立していきたい。</p> |

「わ かるまい」雑穀の桃源郷づくりプロジェクト（岩手県軽米町地域）－軽米町－

◆主な実施取組の内容◆

取組①「地域の食文化の維持・伝承、付加価値化」

実施主体：軽米町

■雑穀を活用した商品・特産品開発、

雑穀を中心とした新たな商品開発に取組み、エゴマ入り味噌餅、アマラサンス茶など試作するとともに、エゴマ油、さるなしワインなど3品が商品化へ向け前進した。

■雑穀活用調理研修会、調理加工体験

町内女性団体による調理研修会等には約60名が参加、雑穀を活用した健康にも良い家庭料理が開発され、郷土食文化の維持・伝承が図られた。

■食の祭典「食フェスタinかるまい」開催

町内外から約2千人が来場、地域の農産物や郷土食文化を広くPRし、安全・安心の雑穀利用に高い関心が示された。



[エゴマ油]



[雑穀調理講習会]



[雑穀調理研修会]

取組②「地域の安全・安心な農産物生産及び美しい景観づくり」

実施主体：軽米町

■高齢者、女性農業者等による農園栽培者研修

町内約70名が、遊休農地約2haを活用したあわ、ひえなどの生産から流通の視察研修に参加。雑穀生産拡大への意欲向上と生きがいの創出に繋がった。

■雑穀等植栽による景観づくり

雑穀の花による植栽を、主要道路約2kmで実施。交流人口拡大のための美しい景観づくりを進めた。

■県内外産直交流、中心街活性化基本調査

県外の産直施設との交流販売試験を実施し、集客状況や交流条件を整理した。中心街の経営実態と今後の課題の整理から、活性化に関する取組み方向を明確化した。



[食フェスタinかるまい]



[そば・アマランスの圃場]

取組③「都市との交流の拡大」

実施主体：軽米町

■雑穀宣伝大使の委嘱、交流推進PR

本町出身の首都圏在住者25名を宣伝大使に委嘱、首都圏消費者へ本町の豊かな自然や文化をPRできた。大使を通じ、首都圏から町づくりに対する意見が寄せられるなど、首都圏ニーズの把握にも効果があった。

■農家民泊の体制づくり

グリーンツーリズムによる都市との交流を推進するため、農家民泊の体制づくりを検討。試行に向けた研修会では30人が受入れノウハウを習得した。

■交流モニターツアーの実施

首都圏から約80名が来町し、本町の自然や文化にふれながら、生産者と消費者の相互理解を深めた。また、首都圏消費者による雑穀生産応援団の結成や雑穀オーナー制度発足への動きが出るなど、今後の新たな交流事業の展開に繋がりをみせた。



[交流ツアー-芝桜植栽体験]



[元気再生推進会議]

◆取組実施による成果・今後の展開◆

雑穀を核とした複合的な取組みにより、本年度の雑穀出荷販売額目標を達成。次年度に向け、ステップづくりができた。商品開発では、品質の確保向上や販売流通の体制づくりを発展充実させるとともに、本年度の首都圏での活動・交流をきっかけに、雑穀生産、販売・交流人口の拡大に繋がっていくものとする。

また、次年度は、「全国雑穀サミットinかるまい」の開催を計画し、安全・安心の雑穀のよさを、軽米から全国へ発信していくとともに、食料自給率の向上に向けた運動として取組みの裾野を拡大しながら、本町が目指す「雑穀の桃源郷づくり」の更なる推進を図っていくものとする。